

令和4年第3回 経済建設委員会会議録

令和4年6月24日

第2委員会室

開 会：午後1時33分

委員長 堀 光明

副委員長 林 貴光

2番委員 太田 敦之、3番委員 猿渡 南江、4番委員 佐々木 透、5番委員 町野 道明

委員長 ; ただいまから令和4年第3回経済建設委員会を開会いたします。

本日の会議は、先ほどの本会議において当委員会に付託された議案の審査であります。

議事の進行は、次第書の順序で行いますのでよろしくお願いいたします。

それでは議題に入りますが、議案の内容は本会議において詳細説明まで受けておりますので、直ちに委員の質疑、それに対する答弁、討論、採決という順序で進めさせていただきます。

なお、発言につきましては、委員長の許可を得て、必ずマイクのランプが点灯することを確認し、着座にて、マイクに向かって、簡潔に質疑答弁をされるようお願いいたします。

委員長 ; それでは、「議第44号 恵那市一般会計補正予算第(3号)(歳入歳出所管部分)」を議題といたします。

本件に対する質疑を行います。

御質疑はありますか。

2番委員。

2番委員 ; はい、よろしくお願いいたします。

7款1項2目の商工業振興事業費の中の原油価格と物価の高騰を受けて、家計と地域経済の活性化を図る目的で、今回、プレミアム商品券を発行するということが載っておりますが、これ、昨年度までもプレミアム商品券を発行しておりますが、そ

れらの実績を踏まえて今回このシート数やプレミアム率を設定したということによるしかたでしょうか。

委員長 ; 商工課長。

商工課長 ; はい。それではお願いいたします。この商品券事業でございますが、今年度のプレミアム付商品券事業が紙商品券と電子商品券、併せて2万シートで、1人2シートの購入上限と当初いたしました。過去の販売実績でございますが、令和元年度は、プレミアム率10%で、1人5シート購入上限、1万シートの販売。令和2年度は、プレミアム率30%で、1人5シート購入上限、5万9,473シートの販売。令和3年度は、プレミアム率30%で、1人4シート購入上限、5万8,741シートの販売実績でした。令和2年度と3年度は、プレミアム率30%で、コロナ禍の対策における規模拡大をいたしました。今年度は、アフターコロナ社会を見据え、事業規模をコロナ禍前の令和元年度のプレミアム率10%に基本的に戻し、発行数も令和元年度実績ベースにより判断いたしました。電子商品券は、消費者の利便性向上と市内事業者のデジタル化推進の強化のため、プレミアム率を15%として進めまして、さらに、今回、燃料物価高騰など影響を受ける市民、事業者支援の目的も併せ1人5シートの購入条件として、電子商品券を2万シートに拡充して販売をいたします。これにより、小売店でのキャッシュレス化の推進、若年層の商品券購入の促進にもつながり、新たな客層の集客と地域内の消費拡大につながるものと考えております。以上でございます。

委員長 ; 3番委員。

3番委員 ; 令和2年から、申込み制だと思うんですけども、この申込みはどなたが申し込んだってというような統計はとっていらっしゃいますでしょうか。

それと、いつも同じような方が申し込んでいらっしゃるのではないかなっていうのもちょっとお聞きしたいってことです。やはり買いたいけど、ちょっと経済的に買えないっていう方を、どれだけ救済ってということもないんですけど、そういうことも考えていらっしゃるかどうか、その辺もちょっとお聞きしたいなと思っております。

委員長 ; 商工課長。

商工課長 ; はい。まず、同じ人が購入しているのではないかと、そういった統計等の御質問でございますが、同じ人が購入するということにつきましては、購入者は、その年度内の期間内で1人の購入シート数の制限を設けておりまして、昨年度は1人4シートまでございました。その期間内で、同じ人が購入制限以上の予約の申込みをしてい

ないか、購入予約者のデータを確認しております。2年連続等購入制限はしておりませんので、前年から連続で購入されたといった確認はしておりません。つまり、同じような人が連続で買っているかという確認しておりません。連続して、毎年商品券を購入していただけるということにつきましては、市内の消費拡大につながるものというふうに考えております。以上でございます。

委員長 ; 3番委員。

3番委員 ; 今後このような、お名前とか住所とか、こういうのを控えていくってことはされないってことでしょうか。それと、あと1つ、これまで何回もこのプレミアム商品券を出しているんですけど、今後も続けていくのでしょうか。その点もお聞きします。

委員長 ; 商工課長。

商工課長 ; 購入者のデータ等でございますが、先ほど申し上げましたように、同じ年度内で、1人のシート数の上限を定めておりますので、その確認のためにデータは控えさせていただいて確認はとっております。これを後年にわたって、確認をしていくという作業等が必要ございませんので行いません。そして、今後のこの商品券事業継続という御質問でございますが、商品券事業は、市内事業者支援、そして、消費喚起を中心とした目的で行ってまいります。今までこの商品券事業を行う中で、事業の継続の声も多くありまして、毎年実績を踏まえて、実行委員会で協議・検討して、継続をしてきております。今年度の事業実績、そして、財源を踏まえまして、実行委員会で協議する中で、来年度の継続については検討してまいりたいと思っております。以上でございます。

委員長 ; 4番委員。

4番委員 ; はい。私もこのプレミアム商品券についてでございますが、先日、全員協議会のほうでも、この中身について御説明をされたんですけど、この電子商品券については本当に私も大賛成で、スマートフォン普及に伴っていいことやなというふうに思っています。ただ、先日の説明の中で、これ紙のベースは500円単位っていうことに多分なると思うんですけど、この電子については、10円単位とかっていうような説明を少しちょっと、聞き間違えたかどうかわからないですけど、というような決済方法っていうふうに。ただ、いろいろ、商品購入の場合、最終的には1円単位の買物になると思うんですけど、その辺については、例えば5万円買った場合、今回の買物が3,535円っていうと残りが4万6,000くらいというふうに出るのかというようなこと。その辺の仕組みをちょっとお聞きしたいと思っております。

委員長 ; 商工課長。

商工課長 ; はい、この電子商品券でございますけれども、こちら利用者の方はスマートフォンで購入をいただきます。買物のときに、お店で電子商品券のQRコードを提示いただきます。そしてお店側で、お店のスマートフォンもしくはタブレットの端末で、お店側が金額を入力いたします。そして利用者のQRコードを読み取って決済が成立いたします。このように1円単位の決済が出来ますので、購入品は1円単位で、例えば333円とか、そういう1円単位の購入が出来ます。そのあとに、購入した方が履歴をスマートフォンで見ることが出来ますので、幾ら払って幾ら残っているということが1円単位で分かるようになるシステムでございます。以上でございます。

委員長 ; ほかにありませんか。

3番委員。

3番委員 ; すいません、ちょっと質問の蒸し返しですけど、それではこれまで1度も購入したことがないっていう方の、そういうデータとか、割合とかっていうのはわからないですかね。

委員長 ; 商工課長。

商工課長 ; データ等につきましては先ほどの御説明のとおりでございますが、1年度の期間内で、重複して購入制限以上に買った方の確認のためにデータをとっておりますので、毎年、買っている方、買ってない方という区別するデータはとってございません。以上でございます。

委員長 ; ほかにありませんか。

5番委員。

5番委員 ; 私も商品券のことですけど、紙は青券、赤券となってまして、電子の場合は、これは青券のほうの部類に入ってくるというふうに考えると思いますけども、利用者を救うという点でいうと、大型店のほうは具合がちょっと悪いかないかと思っておりますけど、その辺りの使い方ってどういうふうになってるのか。

委員長 ; 商工課長。

商工課長 ; はい。電子商品券のほうでございますが、紙は青券、赤券があり、青が一般店、そして赤は、大型店、一般店の共通。電子商品券につきましては、一般店のみの利用ということでございます。こちらにつきましては、今年度のこの事業展開の中で、電子商品券につきましては、本来の地元中小の事業者、市内事業者を支援していくという目的のために、今回は一般店ということで進めさせていただいております。以上でございます。

委員長 ; ほかにありませんか。

1 番委員。

1 番委員 ; 畜産振興事業費に関してですけれども、酪農及び和牛の生産農家に対する飼料購入に対する支援って書いてあるんですけれども、豚の生産者に関しては何か支援が入ってるのでしょうか。

委員長 ; 農政課長。

農政課長 ; はい。お願い申し上げます。前回の全員協議会で若干、説明不足だった部分もございまして、ここで説明させていただきます。畜産振興事業費、ここにある粗飼料というのは、牛しか食べない牧草、ワラの部分です。ですので豚、鶏につきましては、配合飼料、いわゆるトウモロコシですとか、大麦ですとかが餌になってきます。牛も食べますが、そちらのほうの支援は、担い手育成事業費の中の畜産物振興対策事業費 100 万円でみています。というのも、県の事業で、配合飼料につきましては、飼料価格高騰対策緊急支援事業補助金がございまして、上昇分の半分を県が見ます。それに市のほうは 10 分の 1 でございしますが、上乘せしてこの配合飼料について見ていくということになりますので、牛、豚、鶏の餌が対象になるということでございます。

委員長 ; ほかにありませんか。

4 番委員。

4 番委員 ; この観光 P R 事業の、市内体験周遊ツアーの件であります、これも昨年、行われましたが、今年も 8 月から開催されるということで、これは本当に恵那市を P R する絶好のチャンスというふうにも思っております。市内の皆様にも使っていただきたいというふうに思っていますが、できれば市外のほうからたくさんの方が来ていただくためにも、この内容ですね。もちろん観光協会さんのほうから、いろいろ企画をするわけでありますが、できれば、いわゆる観光に携わるノウハウ。またいろんな経験を持った、そういった人たちも含めた内容、恵那市にはこんなところがあるんですよっていうような、それなら行ってみようかみたいな、そういう企画をお願いしたいというふうに思っておりますが、いかがでしょうか。

委員長 ; 観光交流課長。

観光交流課長 ; はい。今おっしゃったとおり観光協会の事業者の中にも、そういったノウハウを持っている事業者、たくさんお見えになりますので、観光協会とともに、事業者さんの御意見を聞きながら、進めてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

委員長 ; ほかにありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

御質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

本件に対する討論はありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

討論はありませんので、ただいまから採決を行います。

「議第 44 号」については、原案のとおり、可決すべきものに、賛成の諸君の挙手を求めます。

(賛 成 者 挙 手)

全会一致であります。よって「議第 44 号」は原案のとおり、可決すべきものと決しました。

委員長 ; 以上で予定の議題を全て終了いたしました。

最後に、本会議における委員会審査結果報告書の作成については、正副委員長に一任いただくことに、ご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

委員長 ; ありがとうございます。

それではこれもちまして、令和 4 年第 3 回経済建設委員会を閉会いたします。

お疲れさまでした。

午後 1 時 49 分閉会

恵那市議会委員会条例第 30 条の規定によりここに署名又は押印する。

恵那市議会 経済建設委員長 堀 光 明